

1月22日（月） マニラ（フィリピン）

マニラ市長表敬訪問

マニラに到着した21日の午後、マニラ空港ではマニラ市の職員に出迎えていただいた。ホテルまでのバス移動では、マニラ市の警察によりバイクで先導いただいたことで渋滞の中でもスムーズに移動することができた。

ホテルから夕食場所までの移動にあたり、マニラで普及している配車サービス「Grab」のアプリを使い、3グループに分かれて乗車し、視察議員団全員がライドシェアを体験した。（ライドシェアについては後述する）

マニラ視察初日、まず、マニラ市役所が庁舎前で実施している掲揚式に参列した後、マニラ市長への表敬訪問を行った。

ホテルから庁舎前までのバス移動に際して、マニラは渋滞が常態化しており当日も渋滞の中であったが、マニラ市の警察によりスムーズに移動することができ、沿道のマニラ市民にはバスに向かって手を振り歓迎していただいた。

マニラ市長のマリア・シェイラ “ハニー”・H・ラクーナ=パンガン氏は、保健センター医師として配属された医務官から公務員歴29年を経て、2004年7月から2013年6月までマニラ第4区市議会議員、2016年7月からマニラ市初の女性副市長、2022年7月からマニラ市初の女性市長に就任している。

掲揚式は、市長ほか全職員参加で毎週月曜日に行われている。

【掲揚式 式次第】

1. 祈祷
2. 国歌斉唱
3. 国旗への忠誠宣誓
4. マニラ讃歌
5. 司会者挨拶
6. 市長メッセージ

当日の旗掲揚式での市長メッセージで、市長は全職員に対して日常の業務に対する労いの言葉をかけられていた。



市長メッセージの後、視察議員団の紹介があり、杉村団長から市長に記念品を贈呈した。

なお、今回のフィリピン視察は、在大阪フィリピン総領事館のマイケル・アル

フレットV. イグナシオ領事をご尽力くださったことにより実現したが、本日はフィリピン貿易産業省外国貿易サービス公社（DTI）からクリスティン・ウマリ氏（対外貿易業務担当官、欧州・東アジア担当監督官）及びザリーナ・ヴィラモラ氏（シニア貿易開発専門官）が旗掲揚式から PAGCOR 視察までご同行くださった。

イントラムロス

マニラ市長への表敬訪問後、バスで移動し、歴史的な要塞都市イントラムロスを視察した。

【現地視察】

イントラムロスはスペイン語で「壁の内側」の意味であり、1571 年、スペイン人がフィリピン統治のために建てたマニラ最古の城壁都市で、当時の建造物や歴史的な遺産が数多く残されている。

イントラムロス内には、要塞の防衛を目的として城壁に配置された大砲が今も残っており、これはかつてスペイン統治時代に海賊からマニラ湾を守るために使用されていたものである。

また、スペイン植民地支配に抵抗し、フィリピン独立運動に取り組み、「国民的英雄」と称されているホセ・リサールの銅像が立てられている。

イントラムロス内にあるサンチャゴ要塞はマニラ湾につながるパシッグ川に面しており、第二次世界大戦中に日本軍占領下では司令塔として使用されていた。反日活動を行っていたフィリピン人の取り調べ等で使われていた水牢があり、川の満潮時には地下牢の天井まで水が入ることから多くのフィリピン人がここで溺死し、また衰弱死したと言われている。

水牢の近くに設置された「白い十字架」の下には、彼らの遺骨が現在も眠っている。



当時使用された大砲



当時使用された水牢



サンチャゴ要塞の城壁跡



フィリピン独立運動に取り組み、「国民的英雄」と称されているホセ・リサールの銅像

マニラ市議会

<マニラ市について>

フィリピンにおける地方自治体の単位は、州、市および町、バラングイという3層構造であり、市は大きく分けて高度都市化市と構成市の2つに分けられ、マニラ市とセブ市は高度都市化市である。高度都市化市は、原則的には州から独立しておりその監督を受けない。バラングイは、フィリピンにおける最小で基礎的な地方自治体である。またこのほかに特別自治体として、マニラ首都圏（NCR）、行政管区、バンサモロ・ムスリム・ミンダナオ自治区が存在している。

マニラ市の人口は184万人、面積は42平方キロメートル、市の予算（2023年度）は約220億ペソ（約558億円）。

議員の選出形態は公選と非公選の2つがあり、公選の定数は36人で住民の投票により選出され、非公選は2人で管轄下の議会の代表者（市バラングイ議会連合会会長、市青年バラングイ議会連合会会長）になる。議員の資格要件は、フィリピン国民、マニラ市に1年以上居住、21歳以上である。

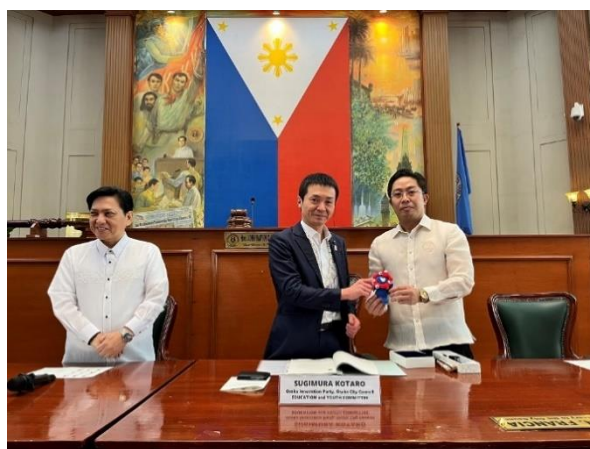
議員の任期は3年であり、5月の第2月曜日に投票が実施される。選挙権は18歳以上のマニラ市民に与えられている。

議会の招集は副市長が議長となり実施される。会期は通常会期と特別会期があり、通常会期は週に1回以上の開催が義務付けられている。特別会期は、市長からの要請もしくは議会の多数による議決によって招集される。議会は原則的に住民に公開されるが、出席議員の過半数の賛成により非公開で行うこともでき、その場合は住民に対して非公開で行う正当な理由の開示が必要となる。議会の役割・機能としては、内部規則・条例の制定や予算の審議、管轄下の地方議会への監督権限、地域開発等の重要事項の審議・議決などがある。

マニラ市と本市は1989年にビジネスパートナー都市提携を行っており、本市からアプローチをしていたものの両市の活発な交流が実現していなかった。2023年マニラ市役所にてBPCラウンドテーブルが開催されたことにより、両市の交流が促進され、このたび在大阪フィリピン総領事館のイグナシオ領事及びマニラ市議会のヌメロ・“ウノ”・リム議員（マニラ第2地区評議会4期議員）のご尽力により今回のマニラ市視察が実現した。

イントラムロスから再びマニラ市庁舎に戻ると庁舎前でマーチングバンドの演奏が始まり視察団は歓迎を受けた。

マニラ市議会議場では、リム議員はじめマニラ市議会議員が同席され、リム議員及び杉村団長によるあいさつ、マニラ市議会議員及び視察議員団がそれぞれメンバー紹介を行った後、杉村団長からリム議員に記念品の贈呈を行った。



杉村団長からリム議員に記念品を贈呈

その後、マニラ市議会議員から、IR事業運営及びカジノ規制、廃棄物処理事業、都市開発、福祉・保健サービスなどマニラ市の取り組みについて説明を受けた。

マニラ市議会議員による説明の後、議場で記念撮影を行った。

その後、庁舎内の別室でマニラ市議会議員とIR事業運営や福祉・保健サービスについて意見交換を行った。



マニラ市議会議場内でマニラ市議会議員らとともに。

【マニラ市議会議員との意見交換】

大阪市は、270 万人で 81 人の議員。24 区の行政区があるが行政区には議会がない。マニラ市は 184 万人で 36 人の公選議員。マニラ市には、基礎自治として 1,740 のバランガイがあり、バランガイ議会がある。マニラ市議会の人口一人あたりの議員数は大阪市の会よりも圧倒的に多いが、都市内に 1,740 もの議会があり大都市における都市内分権という視点で見れば、フィリピンは仕組みがうまく機能できれば、住民自治が拡充される条件がある。大阪市では、各区に区政会議はあるが住民自治の拡充をどう進めていくかの課題が残されたままである。

マニラ市議会としては、解決しなくてはならない社会問題が多く横たわっており、貧困、格差、教育、医療サービス、雇用、環境、ごみ問題などの課題に対する公共サービスをアップグレードしていかななくてはならないと認識しており、今後、大阪市との連携協働を望んでいる。

議員との意見交換では、政党は多数存在するが、マニラ市議会は一つの政党が独占している。現在の市長も議員出身であり、意見交換した議員の祖父も元市長とのことで世襲議員が多い様子。選挙は、3 期連続すると 1 期あけなくてはならないルールがあり、その 1 期は配偶者が出馬するという事例もお聞きした。現在、女性議員の比率は 25%。マニラ市議会では、無所属新人で立候補して当選することは難しい状況とのことである。



マニラ市庁舎内 Antonio Villegas Hall にて、マニラ市議会議員らと意見交換をしている様子。

PAGCOR（フィリピン・アミューズメント・ゲーミング会社）

PAGCOR(Philippines Amusement and Gaming Corporation)は、フィリピン大統領府の下にある100%政府出資の企業で、政府予算の財源獲得と非合法カジノの排除を目的に1977年に設立された。

当初設定されたPAGCORの権限は、①フィリピンのカジノの規制、運営、認可、免許を付与すること、②国家発展のため収益を生み出すこと、③フィリピン観光業の促進に寄与することであった。

2007年の法改正で、同社は新たに議会から25年の独占権を付与され、その後さらに25年間更新可能となった。2025年までに民営化される準備が進められており、同社はカジノ運営業務を切り離し、完全な規制機関になる予定である。

本日は、ニュー・コースト・ホテルにて PAGCOR 社のダニエル・セシリオ統括部長及びヴィーナ・クロードット部長補佐から説明を受けた。

【説明概要】

I R（統合型リゾート）は、1 か所にホテル、会議場、レストラン、エンターテインメントなどが併設された複合的な施設をいうが、フィリピンの I R施設の要件としてカジノエリアは総床面積の 7.5%未満、ホテルは 800 部屋以上、平均客室面積 40 m²以上としている。

フィリピンの I Rは合計で 14 か所あり、全ての施設のホテルの部屋数は合計で 7,191 部屋となっており、テーブルゲーム数は 1,740 台、スロットマシン数 13,105 台、電気製のテーブルゲームは 1,490 台ある。

今後、運営予定の施設として、マニラ首都圏の中に 4 か所、クラークに 3 か所、セブに 2 か所とボラカイに 1 か所が予定されている。

新たに I R免許申請をする場合の手続きについては、まずは、申請書とともに、10 万ドルを提出すると、仮免許が発行される。カジノとホテルの建築が完了すれば、正式なカジノ運営の免許が交付される。申請から正式な免許交付に至るまでの期間は、5 年から 7 年ほどかかる。

全ての I Rは必要な規制、規則のもとで運営されており、例えば、カジノの規制マニュアル、コンプライアンスのマニュアル、ゲーミングの雇用ライセンスのマニュアル、ゲーム企画のマニュアル、財団運営のルールなどがある。

また、不正な手口を使って得た資金の出どころをわからなくする手段として大金を他国に持ち出すマネーロンダリングを禁止する規則もあり、全てのカジノに課せられている。このアンチマネーロンダリングの規則が守られているかどうか監視している部署がある。

カジノのレイアウト、管理のしくみについて定められているカジノ規制マニュアルや、サプライヤーを規制しているサプライヤー向けのマニュアルなど、全てのカジノに課されている規制やマニュアルがきちんと守られているかを管理している部署がある。

例えば、ゲームで使われている機械について、使用後はどのように処分するのか、どのように保管するのかなどマニュアルで定められており、それらの管理を行っている。現在、サプライヤーが製作した最新の機械を展示し、サプライヤーのためのショールームも整備されている。

また、カジノにおけるジャンケットオペレーターのガイドラインも定められている。

カジノに従事する者は全てゲーミング雇用ライセンスが必要とされており、

これは雇用開始時及び継続的な雇用要件であり、雇用主は有効なライセンスを持たない個人を雇用してはならないこととなっている。2023 年 12 月 31 日時点で 5 万 2,370 人がライセンスを持っている。。

PAGCOR の取り組みとして「責任あるゲーミング」の実践がある。これはギャンブル依存症や未成年のギャンブルを防ぐためのものである。

「責任あるゲーミング」の実践として、「認識させる」ためのプログラムがある。カジノの中で掲示されるすべてのポスターに、ギャンブルゲームの規制について記載があり、例えば、公務員の入場禁止などについて記載している。

また、「責任あるゲーミング」の実践の一つとして、本人自身や家族のカジノへの入場禁止を申請する入場制限プログラムもある。

その他、PAGCOR の役割として全てのゲーミングがコンプライアンス遵守されたものとなっているかどうか監査を行っている。

全ての I R は財団を設立する必要があり、財団の基金は、主に教育、環境保健、文化遺産という 3 つの分野に分けて提供することができることになっている。

財団の基金提供については、PAGCOR の許可が必要となるが、これまで許可された例として、シティ・オブ・ドリームスの基金 2,000 万ドルで病院がつくられた。また、ニューポート・ワールド・リゾートの基金で小学校の建物が設立された。現在、ソレアの財団により医療センターが建築中である。



PAGCOR 社からプロジェクターを使って説明を受けている様子。

【質疑応答】

Q：自国民をカジノに入場させる場合、何かデメリットはあるか。

A：自国民を入場させることにデメリットがあるわけではないが、もし、未成年者や公務員がカジノに入場した場合は、PAGCOR が定める規則に従い、事業者に厳しいペナルティが課せられることになる。

Q：大阪のカジノは年間 5,200 億円の売上を想定しており、初期投資額は 1 兆 2,700 億円である。これについて、同業者としての意見を伺いたい。

A：フィリピンでは、14 か所のカジノがあり、1 か所での投資額は 1 億ドル（150 億円）である。日本はその投資の百倍で非常に大きい。2023 年のフィリピ

ンカジノの総収入は5億ドルであるが、日本の想定する売上額は大きい。

Q：カジノで徴収された税金は全額政府に納付されるのか。

A：PAGCOR は政府出資の会社であるため、収益の使途は定められており、カジノが設置されている都市に対して、一定額が地域振興のため支払われている。

Q：カジノによってまちの人口は増えたか。ビジネスが活性化したか。PAGCOR の強みは何か。

A：ビジネス、経済が成長し、人々は裕福になった。ジャンケットの2%を財団が使っており、病院、学校が建設されている。カジノの中だけではなく、周りに新たなレストランやお店ができることで地域に雇用が増えており、それに伴い自治体も経済的に満たされている。

Q：フィリピンには多くのカジノがあるが、政府の計画どおり予定どおり進んでいるのか。違法カジノが多くあったが、PAGCOR によって改善されたのか。

A：政府の計画どおり進められている。現在、違法カジノは全くない。

Q：日本ではカジノ依存症が心配されているが、フィリピンではカジノ依存症などの課題はあるか。

A：ギャンブル依存症を防止するためにいろんな対策をしている。フィリピン人の国民性として、カジノに限らず、闘鶏や競馬などが好まれるので、ゲーム依存症になる可能性はある。カジノの中に家族が入ってはいけないと申請することができるなど、依存症対策を行っている。

Q：大阪のIRは世界最大、最新の設備というのを売りにしている。年間2,000万人の入場を予定しているが、それを脅威と感じるか。

A：カジノでゲームをする人は一カ所に止まらず、フィリピン、マカオ、韓国、シンガポールなどいろいろな国を回る。例えば、マカオで運が良いと、次は韓国に行くなど。そのため脅威と感じていない。よりお客の選択肢が増えて、カジノ市場は大きくなっていく。

IR施設見学

ニュー・コースト・ホテルからバスでエンターテインメントシティ・マニラに移動し、ニューポート・ワールド・リゾート、ソレア・リゾート・アンド・カジノ、オカダ・マニラの3か所のIR施設を見学した。

【現地視察】

(ニューポート・ワールド・リゾート)

2009年に開業したフィリピン初の統合型リゾートでニノイ・アキノ国際空港から5 kmの近距離に位置する。

11.5ヘクタールの敷地内には、カジノのほか、全室スイートルームの「マキシムスホテル」や5つ星ホテルの「マニラ・マリオット・ホテル」など4つのホテルが併設されている。

また、有名ブランドショップやレストランが集結した「ニューポート・モール」や「ニューポート・シネマズ」、「ニューポート・パフォーミング・アーツ・シアター」などの映画館を備えている。



ニューポート・ワールド・リゾートの施設見学の様子。

(ソレア・リゾート・アンド・カジノ)

SMX コンベンションセンターやショッピングセンターに隣接しており、会議への参加やショッピング等の利便性に優れている。

2018 年世界でもっとも豪華なホテルにも選ばれた、フィリピン初の高級統合型リゾート施設である。カジノは充実しているが、ショッピングやエンタメ施設は他のIRに比べて見劣りするため、カジノを目的に訪れる人が多い。



ソレア・リゾート・アンド・カジノの施設見学の様子。

(オカダ・マニラ)

マニラ初の日本資本IRとして2017年3月に開業された。施設名はユニバーサル・エンターテイメントの創業者である岡田和生氏の名前からオカダ・マニラとなった。

オーシャンフロントの44ヘクタールの広大な敷地にそびえたつ、ラグジュアリーな統合型リゾートである。

施設中心部に位置する 37,000 m²のプールでは巨大噴水ショーを無料で鑑賞することができる。日本資本のため、レストランは高級感のある日本料理店が充実している。



PAGCOR の CEO アレハンドロ・ヒボリート・テンコ氏（左から 2 人目）との意見交換。
施設見学中に来訪される。



オカダ・マニラでの噴水ショー

【各会派の所感】

〔大阪維新の会〕

(1)マニラ市長表敬訪問

東南アジアに位置し、周囲を海に囲まれた島国・フィリピン。フィリピンがスペインによって植民地化された 16 世紀以降、この国の首都として発展してきたマニラは、「東洋の真珠」という異名を持つ美しい街で、歴史的建造物や活気あふれる商店が立ち並んでいる。

マニラ首都圏では 1990 年代以降、経済成長に伴う自動車交通量の増加等により、道路渋滞が深刻な問題となっている。また、公共交通機関が不足していることも深刻な道路渋滞に拍車をかけており、特に朝、夕は車で 10 キロメートルを移動するのに 30 分以上要することもあるとのこと。

ボニフェシオ・アンド・ザ・カティプナン・レボリューション・モニュメントの広場で行われる旗掲揚式に参列し、マニラ市長への表敬訪問を行った。マニラ市長のマリア・シェイラ “ハニー”・H・ラクーナ=パンガン氏は、政策立案者として、またビジョナリーリーダーとしてフィリピーナ・ウーマンズ・ネットワーク財団より世界で最も影響力のあるフィリピン人女性の一人に選出されている。

今回のフィリピン視察は、在大阪フィリピン総領事館のマイケル・アルフレッ

トV. イグナシオ領事をご尽力くださったとのことで両市の交流にあたり日々ご努力いただいている関係各位に改めて感謝申し上げます。

(2)イントラムロス視察

イントラムロスはスペイン語で「壁の内側で」という意味で、スペイン人初代総督レガスピがフィリピン統治の本拠地として建設した城塞跡として知られている。イントラムロスは「マニラの原型」ともいわれ、かつてのマニラの中心地とされていた。現在でも当時の建造物や歴史的な遺産が数多く残されている。

第二次世界大戦ではイントラムロスでも激戦が繰り広げられ、多数の人命が失われている。視察当日は多くの現地の子ども達も校外学習に来ており、引率する先生の説明を真剣に聞き入る姿が印象的であった。

(3)マニラ市議会

マニラ市議会議員からマニラ市の取組について説明を受け、意見交換を行った。マニラ市の面積は 42 平方キロメートルで人口は 184 万人であり、本市の面積 225 平方キロメートルで人口 276 万人と比較しても人口密度が非常に高く、これにより、住宅不足や交通渋滞、公共サービスの不均衡などの問題が顕在化している。そのため、居住地の供給や都市機能の再配置のために新たな埋め立て地を造成していく必要があること。また、マニラ市では、都心部と周辺地域との間での経済的、社会的な格差が顕著であり、地域間の不均衡が問題となっている。都心部に集中する経済活動やサービスが、周辺地域に及ぼす影響が大きく、地域間の格差が広がっているため、雇用を創出し、市民の心身の健康のためのサービスをさらに向上させ、将来の子ども達のための街づくりに取り組まなければならないことなどの課題について説明された。

なお、マニラ市役所庁舎の屋上にはソーラーパネルが設置されており、市役所のエネルギー費用を削減するとともに、大気汚染や環境汚染などの環境問題を軽減し、地域の健康と環境の保全に取り組んでいる。

(4)PAGCOR 視察説明聴取

PAGCOR の役割と業務についての説明を受け、その取り組みの幅広さと意義の深さに関心を持った。フィリピンのカジノは自国民の入場は可能だが、公務員の信頼性や誠実性を維持するための措置として公務員の入場は厳しく制限されている。また、この街にカジノを開業することによって、例えば街の人口が増えたとか、あるいは周辺に企業が集まるなどしてビジネスが活性化したとか、そういったメリットはあったか、PAGCOR としての強みは何かと質問した際にはビジネスは活性化し、経済が成長し、人々は裕福になった。世界各国の富裕層をカジノ

へ招待し、航空券やホテル、滞在中の移動や食事などの世話をするジャンケットの利益のうち2%を財団が使っていて、それが病院、学校の建設に充てられている。また、カジノの中だけではなく、カジノの周辺に飲食店など色々なお店ができたので、地域の雇用も増え、地方自治体の経済にも反映しているとの回答であった。

PAGCORの説明では、IRが許可されるにあたっては財団の設立という条件があり、当該財団に積立された基金を教育や環境、保健、文化などに提供しなければならないとのことであった。まさにIRの収益性を鑑みたCSR活動、さらには社会・地域貢献策の一つだと考えられる。

企業の主体性・発展性を基本としながらも、大阪全体の活性化を見据えた社会・地域貢献に寄与するような官民一体の取り組みも検討する必要性を感じた。

〔自由民主党・市民クラブ〕

PAGCORは100%政府が株式を所有する管理企業である。私たちが懸念するギャンブル依存症問題など多くの問題があったような印象を受けた。また、日本と同じような規制、ルールの下での営業が行われている感じがした。42ヘクタールの広大な敷地にそびえ建つ2016年12月に開業した総合型リゾートホテルオカダマニラは、993客室という巨大ホテルで高級ブランド店や高級レストランに庶民的なレストランもあり、充実している感があった。また、エンターテインメント劇場はあったが、大きなMICE（会議施設）機能は無かったように思う。カジノについて、まさに別世界感で圧倒されたが、依存症や大負けする方など不安を感じる場所であった。

〔自由民主党・市民とつながる・くらしが第一〕

マニラ市長はじめ、マニラ市の丁重な視察受け入れに感謝する。渋滞の中バイクでの警備によるスムーズな移動をはじめ緊急車両が同行して、救急隊員も視察先までAEDを携帯しながら同行していただいたこと、また市役所では、盛大に歓迎セレモニーの演奏で出迎えいていただき、大変な驚きとともに厚く感謝する。

私たちが表敬訪問した毎週月曜日の朝礼（旗掲揚式）は、フィリピンのすべての自治体で行われている。以前は、国歌が流れている間、市民は立ち止まる法律もあり罰則もあった。フィリピンは7,641の島々がある島国であり、多言語であり、多民族国家である。国旗、国歌が国民をつなげ、国民の愛国心の象徴となっていると実感した。市長へミャクミャクのぬいぐるみを贈呈したところ、その

様子がフィリピン国のSNSにも取り上げられるなど、大阪・関西万博の機運醸成につながるものとなった。

また、移動のバスや町の散策から見える風景からは、至るところで建設中のビルやホテルがあり経済が著しく発展していく様子を実感できた。それと同時に日本の貧困は、見えにくくなっている相対的貧困であり、フィリピンでは絶対的貧困に苦しむストリートチルドレンがいる。絶対的貧困に苦しむ家族の子供達は学校に行けない子どもたちも多く、お金をもらいに来る子供たちにもたくさん出会った。こうした資本主義が生み出す貧困に対して、住まいを始めとする公的なアプローチは大きな課題となっていることを実感した。こうした課題解決のための財源確保の方法のひとつとしてカジノや観光が位置づけられている。

(イントラムロス)

占領下の日本に対して悪い印象を持っている戦争を知る人がだんだん少なくなってきたいて、戦争を知らない若い世代は、日本に対して悪い印象はなくなってきたという説明があった。このこと自体は、悪いことではないが、歴史は繰り返し、世界では戦争が続いている中で「風化させず歴史の教訓を次の世代へどうつないでいくか」この点については、日本とも共通している課題である。

(PAGCOR)

PAGCOR は 100%政府出資の企業として、政府予算の財源獲得と非合法カジノの排除を目的に、カジノの規制、運営、認可、免許の付与などの業務を行っておりカジノに対して大きな権限をもっていることが、説明からも、各IR施設を見学させていただいた様子からもよく分かる。しかしながら、運営と規制の利益相反となっているため PAGCOR 社はカジノ運営業務を切り離し、2025 年までに民営化され完全な規制機関になる計画である。

大阪IRではカジノの床面積は全体の3%であるが、フィリピンでは、総床面積の7.5%未満となっている。入場料は、外国人観光客も無料。最大の関心事としての入場規制、ギャンブル依存症対策については、水原一平氏のギャンブル依存症による巨額の窃盗事件もありあらためてギャンブル依存の怖さについても注目も浴びているところ。「責任あるゲーミング」(<https://www.cityofdreamsmanila.com/jp/responsible-gaming>より)として入場禁止は、21歳未満の方、すべての学校、

短大、または大学の学生、政府職員とその近親者(配偶者、子供、親など)、フィリピン軍(AFP)およびフィリピン国家警察(PNP)の従事者、PAGCORが管理する全国の入場禁止人物データベースに含まれた方、本人、家族から入場制限申請者。依存症対策としてのカウンセリングセンターを設置する。

視察では、アレハンドロ・テンコ(Alejandro H. Tengco)会長からもヒアリン

グさせていただいた。次の報道記事『2023 年の同国のゲーミング収益（GGR）は 2852.7 億フィリピンペソ（約 7,514 億円）で、新型コロナウイルス感染症パンデミック前の 2019 年の水準を 11.2% 上回り過去最高を更新した。アレハンドロ・テニコ会長は、「2023 年の実績は、我々の最も楽観的な予測をも上回るものであり、フィリピンのゲーミング産業が完全に回復し、中長期的に持続的な成長を遂げる態勢が整ったことを疑う余地なく証明するものである」「PAGCOR が国家建設の使命を果たす能力を高めたことにつながる」と述べた。』（2024. 1. 22 アミューズメントジャパン編集部）のとおり、大阪の I R の進展にも興味を示し、できる協力は惜しまないとのことだった。「PAGCOR が国家建設の使命を果たす能力を高めたことにつながる」との会長の言葉にあるように PAGCOR の権限のひとつは、「国家発展のため収益を生み出すこと」にあり、そこから教育、環境保健、文化遺産の財源となることはやはり I R の大義名分となっている。

大阪 I R 誘致は、当初目指した「世界基準・国内最大の MICE を誘致の規模の変更」、「年間 1,610 万人という過大な集客予測」、「カジノ売上想定外国人 2200 億円、日本人 2,700 億円と日本人に重きを置いた想定」、「ギャンブル依存症」、「土地汚染対策」など課題が指摘され、2023 年統一地方選挙では、報道機関の調査により賛成が反対を上回る調査、その逆の調査もあり賛否が拮抗している状況。今後の進捗状況も注視しながら海外の先行事例を参考に施策をチェックしていく。

（I R 施設）

ニューポート・ワールド・リゾートは、随行の通訳者もプライベートで映画を見に来たり、食事に来たりすると紹介され、その人の目的によって利用できる施設となっている。カジノの中に A T M があり、負けが込んできたらお金をそこで次々引き出すのでは、といらぬ心配をしてしまうが、引き出せる額は上限あり。誰でも入れる一般フロアと、富裕層向けのカジノフロアである V I P ルームがあり、もちろんターゲットは富裕層とのこと。

ソレア・リゾート・アンド・カジノは、世界でもっとも豪華なホテルにも選ばれた高級統合型リゾート施設とのおり、ホテルの施設は至るところ豪華であった。カジノが充実しているとのことだったが、見た目には、ニューポート、オカダ・マニラとの区別はあまり分からなかった。オカダ・マニラでは、夕食のバイキングと巨大噴水ショーを実際に鑑賞。統合型リゾートの名前のおり、カジノ以外のリゾートで楽しめるが、収入総計のカジノ収益の占める割合は、それぞれ 80%～95%（アジア近隣諸国をはじめとする世界各国の I R における経営戦略等及び再投資に関する事例調査報告書平成 30 年度 内閣官房委託調査）であり、カジノ抜きでは I R は成り立たない。